

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東住吉区
学校名	矢田小学校
学校長名	宮川 潤一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
矢田小学校では、第6学年 17名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数、理科ともに全国の平均正答率を下回る結果であった。しかし、昨年度より全国との差は縮まっており、国語と理科については、大阪市平均とほぼ同じ結果となった。

学校生活では、集中し、落ち着いて学習に向かうことができるよう、教職員全体で取り組み続けている。各学年団で、超少人数授業や習熟度別授業を取り入れた学習環境を積極的に用いていることが、子ども達の学習意欲につながっている。しかしながら、生活習慣の質問結果で分かるように、まだ規則正しい生活ができるていない家庭が多いのが課題である。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 正答率は、昨年度より上がり、大阪市平均との差も縮まった。「言葉の特徴」と「話す・聞く」の内容では、全国平均を上回っている。しかし「書くこと」と「読むこと」は全国平均を下回っているので、視写や読書習慣などを意識していく必要がある。

〔算数〕 正答率は、昨年度より上がり、大阪市平均との差も縮まった。領域では、「数と計算」と「変化と関係」は全国平均とほぼ同じ結果となった。しかし「図形」では、全国平均と5ポイント以上差が離れている。4年前より、習熟度別学習や少人数学習を多く取り入れ、丁寧な指導をしているが、今後も個に応じたきめ細やかな指導を継続していく必要がある。

〔理科〕 正答率は、大阪市平均、全国平均を上回る領域もあれば、下回る領域もあった。実験結果の考察等を通して、主体的に学ぶ力を身につけさせたい。

今年度は各教科で全国平均や市平均に近づいた。超少人数授業や、習熟度別学習で児童の理解が深まるよう、一人一人に丁寧な指導をしてきており、子ども達の学習に対する意欲も高まっている。今後もこの学習スタイルを継続、または発展させた形を考案し、より丁寧な指導に努めていく。

質問調査より

今年度は、基本的生活習慣（「朝食を毎日食べている」「毎朝同じくらいの時刻に起きている」）が全国・市平均と比べてやや低くなっている。家庭での部分についても継続した指導と啓発を行っていく。

昨年度も改善が見られたが、今年度も「自尊心の向上」の部分で改善が見られた。「自分には良いところがある」「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいいことだ」は100%肯定回答をしている。子ども達一人一人と向き合い寄り添った指導や、仲間と共に活動する取り組みの充実がこのような結果をもたらしていると考える。今後も継続して取り組んでいきたい。

今後の取組(アクションプラン)

本校は、小中一貫校として「9年間を一体ととらえた『学び』と『育ち』を柱とした学習指導」をめざしている。授業研究では、全教員が授業相互参観や小中合同の授業研究を行い、より良い授業を創るために話し合いを深めてきている。今年度は、研究テーマを「協働して意欲的に学び続ける子の育成～対話的活動を軸とした授業づくり～」と設定し、探究的で対話的な学びから、実践的なコミュニケーション力の育成につなげられるような授業づくりや手立てを研究している。

これらの取り組みを継続しつつ、学年団、算数専科制を生かし、単純2分割学習や超少人

数・習熟度別授業を積極的に行い、児童に寄り添った丁寧な指導をし、基礎的・基本的な学力の定着を図っていきたい。また、どの教科でも、ICT機器を活用した視覚的教材の工夫等により、「わかる授業」をめざす。今年で7年目になる漢字検定の取り組みは、全学年を対象に受検する。児童の学習状況を把握しながら、教員と児童、保護者で受検する級を決定し、合格体験や自己肯定感を高めることができる取り組みとして、今後も継続していく。